

# ほおぼる幸せ。富山米



**【目標】 うるち玄米1等比率90%以上**

## 技術対策の3本の矢

- 1本目 ▶ 5/15中心の田植え
- 2本目 ▶ 過剰な籾数の防止
- 3本目 ▶ 稲体活力の維持

昨年8月の日照不足にも耐えて、H26年産は、1等米比率87%に向上!  
暑い夏がやってきても品質低下しないよう、引き続き技術対策の徹底をお願いします!!

# 「元気な富山米ブランド」のための重点技術対策

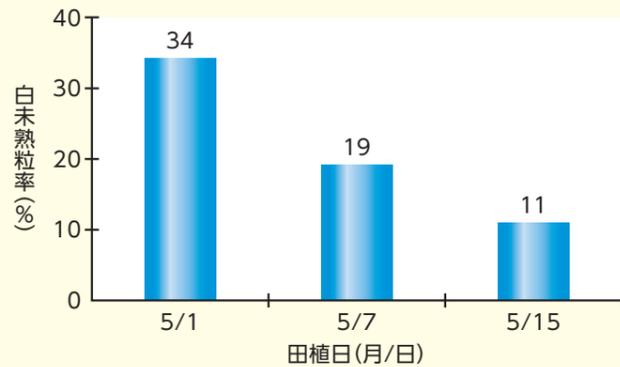
## ～ 1等米比率90%以上を目指して～

### 1 1本目の矢: 5/15中心の田植え

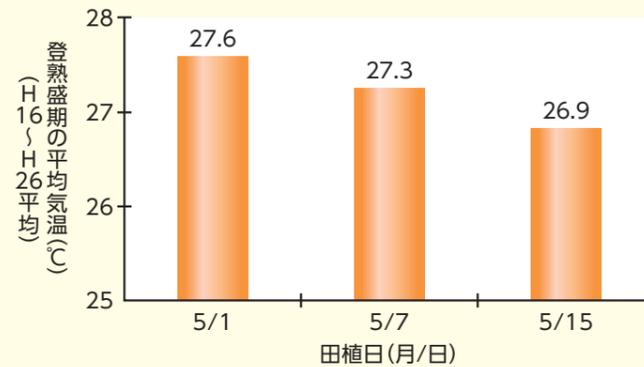
田植えが早いと出穂後の高温期間が長くなり、品質低下!

#### 1 出穂後の高温を回避

- 田植えは5/15を中心に!



田植時期と白未熟粒の発生率 (H26県農業研究所)



田植時期と登熟盛期の平均気温  
 ※1 H16～26作況試験(県農業研究所)  
 ※2 登熟盛期は出穂後5～25日

#### 2 5/15中心の田植えにあわせた播種・育苗

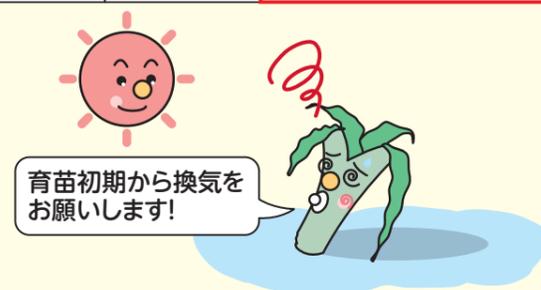
- 播種は、あわてずに4/25頃に
- 育苗期間は気温が高く苗が長くなりやすいので、搬出直後から換気を

#### 育苗計画の目安

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/18頃	5/10	8/2頃
<b>4/16頃</b>	<b>4/25頃</b>	<b>5/15</b>	<b>8/5頃</b>
4/22頃	4/30頃	5/20	8/8頃

#### 育苗期間中の温度管理の目安

苗のステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2～3日	13～15日
温度 昼	30°C	25°C以下	

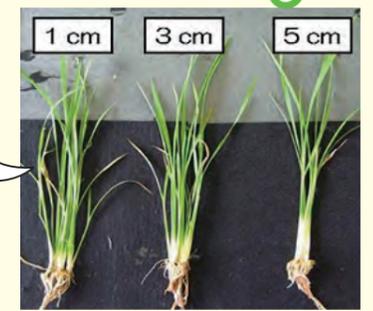


### 2 2本目の矢: 過剰な籾数の防止

籾数が多くなると、転流するでんぷんが不足し、品質低下!

#### 1 田植え作業の適正化

- 栽植密度70株、植付本数3～4本、植付深さ3cmの徹底
- 土壌に応じた基肥窒素量の確保  
砂壤土3.0～4.0kg/10a、埴壤土1.8～2.6kg/10a



#### 2 溝掘り・中干しの徹底

- 中干しは田植え後1カ月頃に遅れずに
- 中干し前には、確実に溝掘りを



中干しによる根の違い

### 3 3本目の矢: 稲体活力の維持

穂揃期の葉色が淡いと、出穂後の暑さに負けて、品質低下!

#### 1 穂揃期の葉色を4.2～4.5(砂壤土は4.5)に誘導

- 幼穂形成期以降は飽水管理を
- 肥効調節型基肥栽培でも、葉色が淡い場合は追加穂肥を



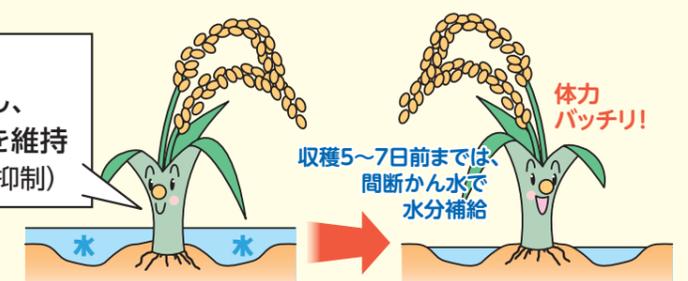
飽水管理

#### 2 出穂後20日間の湛水管理を徹底

#### 3 刈取り5～7日前までは間断かん水を

(特にフェーンが予想される場合は事前に入水)

出穂期から20日間は、**田面水の深さを2～3cm程度とし、田面が露出しないよう湛水状態を維持**(稲体の活力維持・カドミウムの吸収抑制)



# 適期作業のため、適正な品種構成を

本県の「コシヒカリ」の作付比率は、約80%と高くなっています。

近年の高温傾向では刈取りの遅れから品質が低下するので、作付比率を見直しましょう。

## 【目標】 移植コシヒカリの割合 60%

(H26～H28年度) 県単独事業で適期作業が可能な品種構成への誘導を支援中

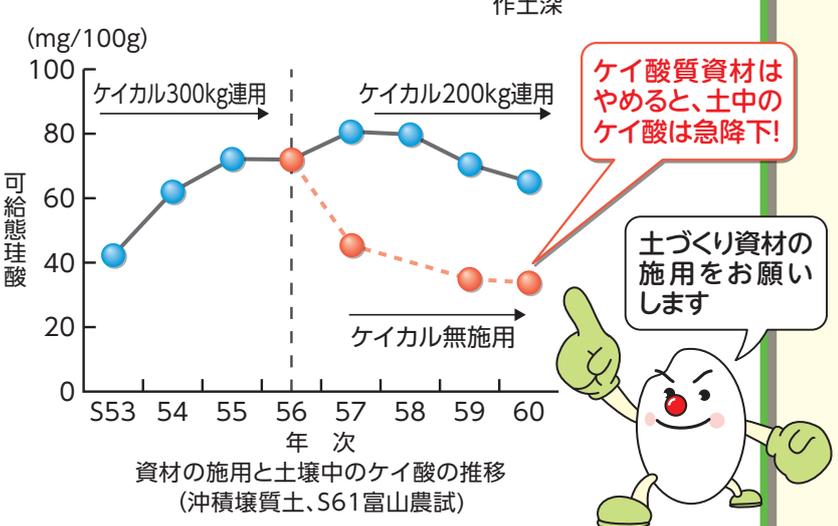
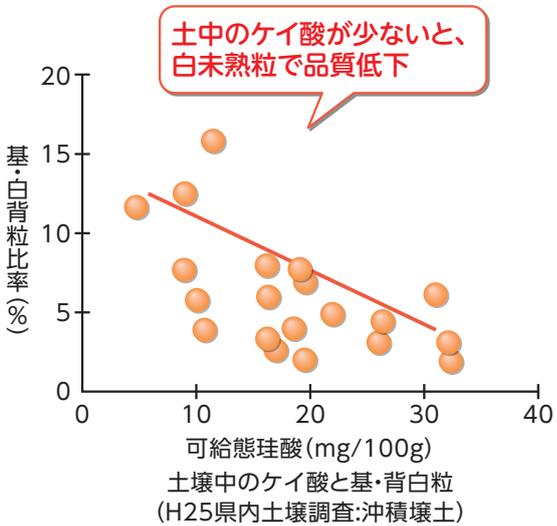
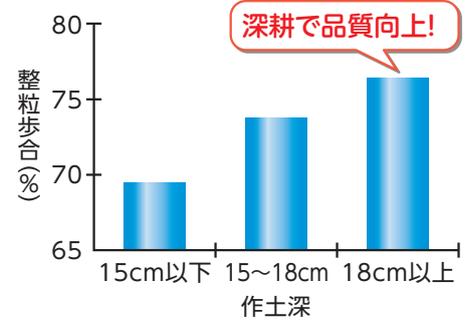
- ① 高温に強い「てんたかく」「てんこもり」の作付け 1,000円/10a
- ② 出穂期が遅くなる「直播コシヒカリ」の導入 2,000円/10a



高温で多発生する被害粒  
(左:基白、中:背白、右:胴割)

# 継続的な土づくりを

- 作土深が大きくなるほど整粒歩合が高くなります。  
プラウ耕の活用など、**現状プラス3cmの深耕を**
- 土中のケイ酸不足は白未熟粒を多くし、品質低下につながるので、**土づくり資材の継続的な施用を!**



# 「とやまGAP」に取組もう!

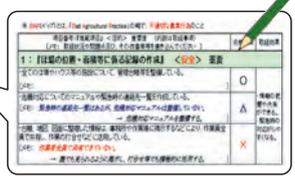
「とやまGAP自己点検シート」を活用して、自らの農場に不適切な行為や状態がないか点検し、改善に努めましょう。

## <とやまGAPの目的と取組み例>

農薬と肥料の適正な使用や管理、生産履歴記帳など



## まずは、自己点検!



とやまGAP自己点検シート